

Michelle G. Craske, PhD

カリフォルニア大学ロサンゼルス校（UCLA）の心理学、精神医学、生物行動科学教授
同大学の不安・うつ研究センター長



クラスク博士は、カリフォルニア大学ロサンゼルス校（UCLA）の心理学、精神医学、生物行動科学教授で、同大学の不安・うつ研究センター長を務めている。またBehaviour Research and Therapyの編集長を務めている。

これまでにクラスク博士は、恐怖、不安、うつ病の分野で540編以上の査読付き学術論文、学術書、セルフヘルプの本、セラピストガイドなど幅広く出版している。1993年以降、小児および青年の不安とうつの危険因子、神経科学に基づく感情調整の媒介要因や不安症の行動的介入、曝露療法を最適化するための恐怖の消去についてのトランスレーショナルモデル、報酬感受性とアンヘドニアに焦点を当てた新しい行動療法等、数多くの研究プロジェクトを手掛けている。

現在クラスク博士は、UCLA におけるうつ病グランドチャレンジ（UCLA Depression Grand Challenge）の統括者を務めている。このグランドチャレンジの一環として、不安とうつのスクリーニングと治療のためのSTANDプログラム（Screening & Treatment for Anxiety and Depression Program）を開発している。クラスク博士は、認知行動療法を牽引する世界的な臨床心理学者である。

日本では、クラスク博士の著書である「不安や心配を克服するためのプログラムの患者用ワークブック」と「不安や心配を克服するためのプログラム 治療者用ガイド」（星和書店）が翻訳出版されている。